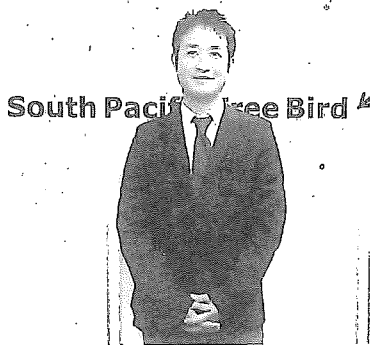


フィジーで英語学校を運営する日本人社長



South Pacific Free Bird

フィジーで英語学校を運営し、日本人を中心に世界各国から留学生を受け入れる「サウスパシフィックフリーバード」。英連邦に属するフィジーは英語が公用語で、教師を確保しやすいという。谷口浩社長(47)「写真」は、「米国籍留学に比べ3分の1の費用で英会話力を身につけられる」と強調する。2004年の開校以来、約2万3千人が留学。うち日本人は約2万人だ。料金は4人部屋の学生寮に宿泊の場合、4週間で約11万円、12週間なら27万円弱。キャリアアップを目指す20代の男女や、夏休みを利用する大学生が多い。開校の2年前、旅行でフィジーを訪れたのが事業につながった。街中で気軽に話しかけてくる陽気

英会話上達“格安留学”で

で友好的な人々に感銘を受けた。一方「近年少子化傾向にあり、失業中の教師が多いことを知った。英会話を勉強したい日本人の需要と結び付けられる」と考えた。現地政府の関係者と交渉し、空いていた校舎を借り受け、インターネットで生徒を募集した。当初は苦戦したが、経験した人がきれいな景色や人の温かさなどをネットで発信し、評判を呼んだ。

世界各地で開かれる語学学校の見本市に出席し、アジアや欧州からも生徒を募集。「開放的な気質で、現地の人と日常的に英語で話す機会は米国の数倍。費用対効果は格段に高い」と語る。

さらにフィジーで高校の経営にも参画。日本の高校になじめない生徒を受け入れ、日本人生徒の学費を使って現地の生徒の授業料を無償に。学力レベルを引き上げ、ラグビーで全国優勝するなど成果を上げた。

谷口社長は、「ある調査によるとフィジーは幸福度が世界で1位。英会話だけでなく、自分の一生に必要な何かを見つけてほしい」と話している。